

ネパール ブンガマティ・パルシドール村 復興支援・訪問報告

国際交流の会とよなか (TIFA) 海野バティ

2016年1月にブンガマティ・パルシドール村を訪問しました。

ブンガマティ・パルシドール村はカトマンズからパタンを経由し、南へ10数キロのブンガマティ町(ネワール族の町)の郊外3キロの所にあり、タマン族の村で村人は約100名、農業に従事しており、主に米、小麦、トウモロコシ、豆、野菜などを作っています。

2015年4月の大地震で住居は甚大な被害を受け居住不可能な状態になりました。

私がパルシドール村の支援を始めたのは、ネパールの知人からパルシドール村は政府、民間からの援助がなく大変困窮していると聞き、当地区の地方村落開発委員に連絡を取り村の状況を聞いた時からです。

これまでの支援活動として

- ・6月にTIFAや娘が通う克明小学校からの義援金で仮設住宅21軒分のトタンを提供しました。仮設住宅は村人自身が竹とトタンで作りました。

村人の声「このような大変な時に遠く日本から支援していただき心から感謝しています」

「国からの援助もなくどうしていいかわからなかった大変感謝しています」

「トタンの仮設住宅のおかげで、安心して雨季を迎えられ、小さな子供も病気にならず暮らせることがとてもうれしいです」



- ・8月にはパルシドール村を訪問し古着を配りました。

村人から仮設住宅支援を大変感謝され歓迎されました。みなさん涙を流しながら感謝されていました。村の現状を見て今後のことが心配になりました。住宅再建には10年以上はかかると思われました。



- ・11月にはカトマンズのがん予防NGOによる子宮がん予防の啓蒙活動を実施しました。

女性の声

「話を聞きがんとは何か初めて知った」

「今までこのような話を聞いたことがなく、とても驚いています」

「がん検診を受けたいと思った」



・12月に私が以前勤めていた「特別養護老人ホーム淳風とよなか」から頂いた義援金とビーズ・ブレスレットの販売利益で毛布を84枚買い村人に配りました。

村人の声

「トタンの仮設住宅は隙間だらけで夜は冷たく隙間風が入りとても寒く、また、トタン屋根は結露が多く、天井から冷たい水滴が落ち布団が濡れてとても冷たくなるが毛布を貰えて大変助かっています」「毛布を貰えた時期がよく大変助かっています」「大事に使わせてもらいます」



・1月、今回は葛西さん、中園さん、竹村さんと4人でパルシドール村を訪問しました。村人からは盛大な歓迎会がありました。

村の女性からは、私が来ることを待っていたと言われました。いつも支援をして頂いて感謝していると言っていました。住むところは寒くて我慢できない上、朝起きると掛布団の上は水で湿っているそうです。毛布1枚でかなり寒さが凌げるそうです。毛布を貰った時、心から感謝し、すぐに連絡を取りたかったと言っていました。今回会えてとても喜んでいました。

今回は村人だけでなく、ブンガマティ町の地方村落開発委員の方も来られ感謝を述べられていました。

ブンガマティ・パルシドール村の震災復興のため、私のネパールでのネットワークを生かし、町の女性から村の女性たちにニット製品を作る技術を指導してもらい、自立再建の手助けをしたいと思っています。12月に行ったプレ・トレーニングには村の女性の大半(約60名)が集まりました。女性達の制作意欲は高く、自分たちも住宅の再建の手助けに少しでも役に立ちたいと言っていました。

今後の復興支援はお金や物を提供するのではなく、村人が自らの手で復興できるように援助をしたいと考えています。女性達が作ったニット製品を日本で販売し、復興支援の手助けをしたいと思います。

皆様のご協力よろしく申し上げます。

